11　　やけぼっくい 　文法　助詞②　副助詞・係助詞

あるに、忍びて通ふ人やありけむ、①いと美しきさへで来にければ、あはれとは思ひきこえながら、きびしき片つ方ⓐやありけむ、絶え間がちにてあるほどに、思ひも忘れず、いみじう慕ふが②うつくしうて、ほど経て立ち寄りたりしかば、いとさびしげにて㋐めづらしくや思ひけむ、かきでつつ見ゐたりしを、③え立ちとまらぬことありて出づるを、例のいたう慕ふがあはれに㋑おぼえて、しばし立ちとまりて、「さらば、いざよ」とて、かき抱きて出でけるを、いと心苦しげに見送りて、前なる火取を手まさぐりにして、

　こだにかくあくがれ出でばのひとりやいとど思ひこがれむ

と忍びやかに言ふを、の後にて聞きて、いみじうあはれにおぼえければ、児もかへして、そのままにⓑなむ居られにし。

語注

ある君達＝ここではある姫君。

片つ方＝もう一人の方、ここでは男の正妻。

火取＝香炉の一種。薫くときは、籠をかぶせる。

【原文】

あるに、忍びて通ふ人やありけむ、いと美しきさへで来にければ、あはれとは思ひきこえながら、きびしき片つ方やありけむ、絶え間がちにてあるほどに、思ひも忘れず、いみじう慕ふがうつくしうて、ほど経て立ち寄りたりしかば、いとさびしげにてめづらしくや思ひけむ、かきでつつ見ゐたりしを、え立ちとまらぬことありて出づるを、例のいたう慕ふがあはれにおぼえて、しばし立ちとまりて、「さらば、いざよ」とて、かき抱きて出でけるを、いと心苦しげに見送りて、前なる火取を手まさぐりにして、

　こだにかくあくがれ出でばのひとりやいとど思ひこがれむ

と忍びやかに言ふを、の後にて聞きて、いみじうあはれにおぼえければ、児もかへして、そのままになむ居られにし。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

ある姫君に〔　　　　　〕通う男がいた。子どももできたが、女のところへは〔　　　　　　　〕になっていた。子どもは男を慕っており、久しぶりに会うと懐いてくる。連れて帰ろうとしたところ、女は〔　　　　　　〕に見送り、〔　　　　　　〕な声で歌を詠んだ。それを聞いた男は、いとおしく思い、〔　　　　　　〕とどまった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの結びの語を文法的に説明せよ。〈3点×2〉

ⓐ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓑ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　チェック問題　助詞②　副助詞・係助詞

次の傍線部の副助詞の用法を後から選び、記号で答えよ。〈1点×2〉

1　ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。（竹取物語）

2　蛍ばかりの光だになし。（竹取物語）

ア　限定　　イ　強意　　ウ　程度　　エ　添加　　オ　類推

1〔　　　〕　2〔　　　〕

問五　傍線部①・③を現代語訳せよ。〈5点×2〉

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、男は子どものどのような点を「うつくしう」と感じているのか。三十字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　「こだにかく…」の和歌について、

⑴　｢ひとり｣は何と何との掛詞か。漢字で答えよ。〈6点〉

〔　　　　　　　　　　と　　　　　　　　　　〕

⑵　和歌に込められた女の思いとして最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　子どもでさえ男についていきたいのだから、私はなおさらついていきたい。

イ　男が出ていくのはしかたがないが、せめて子どもだけでも手元においてほしい。

ウ　あなただけではなく子どもまでも出ていって、私だけにしないでほしい。

エ　子どもだけをかわいがるのではなく、私のことも大切に思ってほしい。

〔　　　〕

【解答】

問一　忍びて　絶え間がち　心苦しげ　忍びやか　そのまま

問二　㋐＝かわいらしい（いとしい）　㋑＝（自然に）思われる〈4点×2〉

問三　ⓐ＝過去推量の助動詞「けむ」連体形〈3点×2〉

ⓑ＝過去の助動詞「き」連体形

問四　１＝エ〈1点×2〉

２＝オ

問五　①＝たいそうかわいらしい子どもまでできてしまったので、〈5点×2〉

③＝立ち止まることができないことがあって出発する

問六　あまり会わない自分のことを忘れずに、たいそう慕ってくれる点。（30字）〈10点〉

問七　⑴　一人と火取（完解）〈6点〉

⑵　ウ〈8点〉

【現代語訳】

ある姫君に、人目を忍んで通う男があったのだろうか、たいそうかわいらしい子どもまでできてしまったので、（通ふ人（通う男）は姫君を）いとしいとは思い申し上げるものの、やかましい正妻があったのだろうか、（訪問が）途切れがちにでいるところに、（児（子ども）が男を）思い忘れもせず、たいそう慕うのがかわいらしくて、長らく途絶えて（いた後）立ち寄ったところ、（その子が）たいそう寂しそうな様子であってかわいらしく思ったのだろうか、（通ふ人（通う男）は子どもの頭を）撫でてかわいがっていたが、立ち止まることができないことがあって出発するのを、いつものようにひどく慕ってくるのでいとおしく思われて、（通ふ人（通う男）は）しばらくの間とどまって、「それなら、一緒においで」と言って、（児（子ども）を）抱き上げて出たのを、（君達（姫君）は）本当にやるせなさそうに見送って、前にある火取の香炉をまさぐりながら、

子どもまでがこのようにふらふらと出て行ってしまったら、薫物の火取というその語のとおり、私は一人で一層人恋しく、物思いに思いこがれる（ことになるの）でしょうか。

と忍びやかに口ずさむのを、屛風の後ろで（通ふ人（通う男）は）聞いて、（君達（姫君）を）たいそういとしいと思われたので、子どもも返して、（男は）そのままとどまりなさった。

【補充問題】

問１　「こだにかく…」の和歌について、「だに」は類推の副助詞であるが、この場合、何から何を類推しているのか。次の空欄に入る本文中の語句を答えよ。

［　Ａ　］が出ていくことから［　Ｂ　］までもがいなくなることを類推。

問２　「児もかへして、そのままになむ居られにし」（８～９行目）とあるが、男がこのようにした理由として最も適当なものを選べ。

ア　自分が屛風の後ろに隠れているのを、女に気づかれてしまったから。

イ　女の歌を屛風の後ろで立ち聞きしていたことを、深く反省したから。

ウ　男の身勝手さを責める女の歌を聞いて、申し訳なく思ったから。

エ　子供にまで去られた孤独な身の上を詠んだ女の歌に、心を打たれたから。

【補充問題解答】

問１　Ａ＝子　Ｂ＝ある君達

問２　エ